

全道医家囲碁大会

名人戦は樋口栄作5段が連覇！（通算3度目）

本因坊戦は高橋2段が2度目の優勝！

第41回全道医家囲碁大会の報告

全道医家囲碁連盟
常任幹事 樋口 栄作



平成26年11月16日、札幌は風もなく晴れ間なのぞく絶好の囲碁日和でした。札幌市医師会館に集合したのは、ほぼいつものメンバー20名。6・7段格の名人戦12名（オール互先）、2段から5段格の本因坊戦8名（ハンディあり）です。メキメキと上達中の武田圭佐先生は、今回名人戦初参加です。強豪の高橋成夫先生がお休みされたのは寂しい限りです。大会に先立ち、7月に逝去されました、故樋口晶文先生の御冥福を祈り、全員で黙とうを捧げました。樋口晶文先生は、私の19歳上の従兄弟なのですが、囲碁の実力が際立っており、記録を見てみると総優勝回数が16回、最多連覇は7連覇という前人未踏の戦績を残しております。北海道医家囲碁界にとっては、大きな大きな存在を失ってしまい残念至極であります。

トーナメントとしては、中途半端な人数でしたが、事務局のご配慮により無事全員が4回戦方式で熱い戦いを繰り広げました。熱戦につぐ熱戦でしたが結果は、名人戦は樋口栄作が2期連続3度目の優勝を、本因坊戦は釧路市医師会所属の高橋誠先生（2段）が見事2回目の優勝を果たしました。

対局の後の一杯は格別です。懇親会では、南田英俊囲碁連盟副会長に例年通り名司会をお願いし、三宅直樹会長と長瀬清北海道医師会長の挨拶の後、名人戦、本因坊戦の表彰式や、入賞者への賞状、トロフィー、副賞の授与、ラッキー賞の抽選、恒例の上村収蔵プロによる名人戦決勝の大盤解説など大いに盛り上がり、和気あいあいのうちに終わりました。来年の再会を約束しつつ、夕方5時過ぎに散会となりました。

最後になりましたが、毎年この大会にご支援、ご協力をいただいております北海道医師会、札幌市医師会、メディコ北海道、損保ジャパン日本興亜の皆様には感謝申し上げます。

第41回名人戦優勝記

札幌市医師会
ひぐち耳鼻咽喉科

樋口 栄作

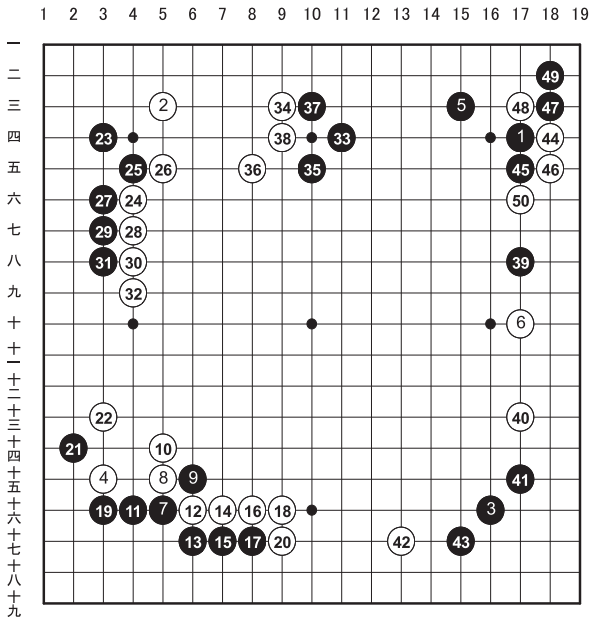


昨年に続き、全道医家囲碁名人戦に優勝することができて、大変嬉しく思います。1回戦がシードとなり、2回戦は大岩彰先生、3回戦では渡会博志先生に勝利し、決勝戦は、強豪の富樫久夫先生との対戦です。富樫先生は目外しを得意とされ、大変早碁なので、序盤から潰されないように、時間に追われないように気を付けながら対局に臨みました。

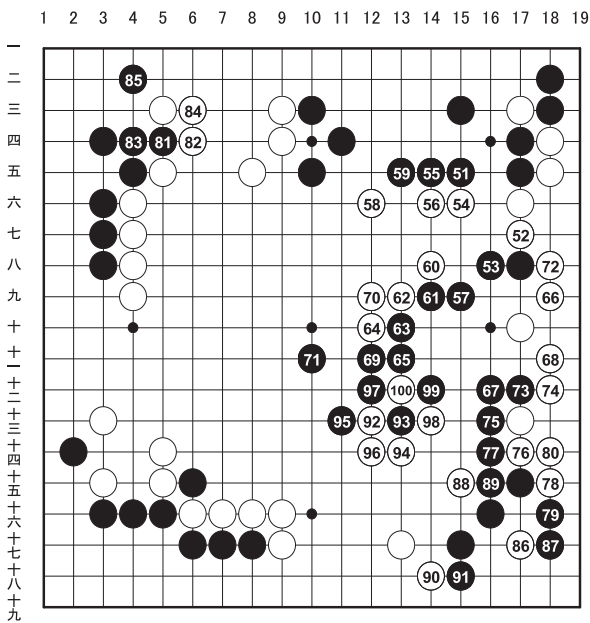
第1譜（1-50）

黒番の私は、黒1小目、黒3星、黒5小目のシマリと構えました。対する白番の富樫先生は、白2、白4と得意の目外しです。白6と右辺の割打ちのあと、黒7と目外しに掛かりました。4十七と応じる場合もありますが、白8と上付けし、黒の実利、白の外勢という変化になりました。黒21の後白22と応じたのは急がなかったかもしれません。黒23ともう一方の目外しに掛かり、黒が少し走っています。白24と大斜に掛かってきましたが、黒25以下簡明な定石を選択し、またも黒の実利、白の外勢という分かれました。先手を得た黒は黒33と白模様を制限しましたが、白34から38までは、利かさの感があり、白が少し辛いかもしれません。黒39と右上隅を厚くし、黒41、43と右下隅を確保して、黒の打ちやすい進行です。白は、白44から右上隅に手を付けてきました。黒は黒47と隅を惜しんで、白50のハネ

第1譜 1-50 黒：樋口、白：富樫



第2譜 51-100



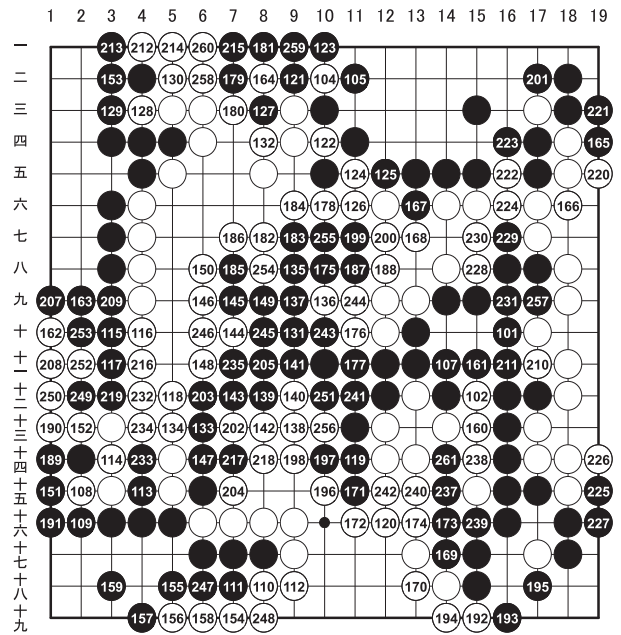
以下、黒39を分断され紛れてしまいましたが、黒47では18六と外側から押さえて白に隅を譲り、続いて16十一と右辺に二間に開いた白を上から圧迫して厚みを築けば、優勢を確立できたでしょう。

第2譜 (51-100)

白に分断された黒は53、57と逃げ出しますが、白62、64の二段バネが厳しく黒苦戦です。黒65と伸びた時、白66と低位で連絡を図った一着が惜しい逸機でした。白に15十一とのぞかれていたら、一気に黒の形が崩れて勝負は分かりませんでした。黒67と利かしながら先手でのぞきを封じ、黒69、71と中央に進出することができて優勢を意識しました。白72と右辺の石が繋がりましたが、黒73から79まで中央

第3譜 101-261

黒103(13十三) 白106(13十二)
白206(8三) 白236(13十三)



の一団と右隅が連絡し黒は弱い石がなくなりました。続いて黒81と左上隅の大所に先着することができ、黒が地合いで大きくリードです。

第3譜 (101-261)

黒115と最後の大場に回った黒は着実にゴールを目指します。途中、左下隅の死活に注意を払いながらヨセが進行し、最後は波乱なく終局しました。序盤から地合いでリードした黒が、途中紛れた場面もありましたが、逃げ切ることができた一局でした。富樫先生の強さを上手にかわすことができ幸運でした。

今回も、いつも暖かい北海道医師会皆様のご協力をいただき、とても充実した楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございます。来年もさらに精進して良い碁が打てるよう頑張りたいと思います。三宅会長、南田副会長を始めとする役員の皆様、上村先生には、いつも大変お世話になり誠にありがとうございました。

第41回本因坊戦優勝記

釧路市医師会
市立釧路国保阿寒診療所
高橋 誠



数年ぶりに参加しました。釧路からJRで札幌へ着き、タクシーで札幌市医師会館へ。まず到着した時には、自分の思っていた以前の光景とは違い、間違った場所に降ろされたのかなと不安になり、スマホで地図を調べてしまいました。しばらくして改装した医師会館の前だと気づいた時には、ホッとしました。受付の守衛さんにもついつい確認してしまいました。

数年前に参加した時には、本因坊戦が2クラスあったのを思い出しました。話す機会は少ないものの、対戦した先生や記憶に残っている囲碁好きな先生の表情がそこにはありました。

日常では、ついつい自分の時間を逃してしまい、囲碁を勉強する時間を見つけにくかったのですが、今回は1か月程前からこの大会の日程を意識して、囲碁の棋書を3冊（基礎からわかる白番布石の教科書、10目得するヨセのテクニック、10目得するサバキのテクニック）を読んで備えました。囲碁を楽しむにも、まず幹となる知識や戦法が必要ではないかと考えて、意識してまずは覚えてみようと思いました。そうすると、ヨセ、サバキについては、全体の半分

以上知らなかったことに愕然としてしまいました。これでは上達や成長は覚束ないぞと。結果的には、覚えるまでには至らないものの、3回繰り返した成果が今回の結果につながったのを感じています。

1局目の古市先生との対戦では、ホンワカした展開からジリジリと押され気味を自覚していましたが、偶然の中盤でのサバキがツボにはまり、余らせていただきました。2局目の島先生との対戦では、中盤バラバラにされて負けたと思っていましたが、最後には思わず4目が残り勝ちを譲っていただいたような感じでした。(目算を勉強しなくちゃ) 3局目の三宅先生との対戦では、一方的に攻められて、もっと捨石を使うこと、攻めるとは眼形を作れないように追い込むのだよ、まるで指導碁のようでした。二子という手合いであり最後はそっと応援をいただいているようでした。4局目の決勝は、上田先生との対戦で、辺で上下同形の布陣があり、どちらの主張がうまいのかと面白い展開になりました。二子の手合いに後押ししてもらい勝ちをプレゼントしていただいたようでした。

今回の大会を通じて、もう少し囲碁が上達したいと思いました。幹となる知識がないと、そこから分かれる枝葉の個の楽しみを味わうことができないなど。勝ち負けも勝負の一つの要素ですが、碁と自分の対話、相手との対話が理解できるような碁の楽しみをしたいなと思います。今後も気持ちを緩めず、来年に向けて、1年一段ずつ成長し五段の世界を見てみたいと思っています。

全道医家囲碁大会が毎年継続開催することを願っています。最後になりましたが、関係者の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

第41回大会成績表

(敬称略)

【名人戦】

順位	氏名	得点
優勝	樋口 栄作	34
準優勝	富 樫 久夫	27
第1位	渡 会 博志	26
第2位	滝 本 昌俊	25
第3位	石 川 順一	24

【本因坊戦】

順位	氏名	得点
優勝	高 橋 誠	34
準優勝	上 田 晃	27
第1位	三 宅 直樹	17
第2位	仲 俊之	17